

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100968		
法人名	医療法人社団長啓会		
事業所名	グループホーム四葉の家 (1号館、2号館、3号館合同)		
所在地	浜松市北区根洗町207番地の3		
自己評価作成日	平成22年11月8日	評価結果市町村受理日	平成23年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ligo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=22771

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県駿河区馬淵2-14-36-402		
訪問調査日	平成22年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月行事を企画し、ドライブや夏祭りなどして楽しんでいたり、地域のボランティアの方に来て頂き、音楽や芸を楽しんだり気分転換しています
毎日ゆっくり、楽しく、一緒にその人らしく生活できるよう援助しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅が密集していないため事業所の周辺付近はやや寂しい感もあるが、館内では利用者が自由に往き来し、利用者同士または利用者と職員の笑い声が絶えず活気に溢れている。また、事業所の中は5Sが行き届き、非常に清潔である。特に感染症に通ずるコンタクトポイントや、見落としがちな隙間や細い溝にありがちな汚れがみられないことは高い評価に値する。散歩や会話など心身維持を心がけているためか、利用者の約半分が85歳以上であるのにも関わらず、大変壮健である。食への意欲が高く完食ができていたり食事介助も見守り程度であることから、生きる意欲の高さが伝わってくる。また、会話も健常なことなどから、日頃の

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもとずき職員全員で地域の一員としてかかわりを持って暮らし続けられるよう努力している	毎日の散歩で近所の皆さんとなじみの関係をつくるほか、神社の草取りをボランティアで取り組むなど、利用者と職員とで地域との関わりの機会を増やしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所は毎日の散歩コースで近隣の方との立ち話もあり野菜をいただいたりする祭典等の行事には積極的に参加している 自治会に加入している	自治会に加入しており、回覧板も廻ってくる。祭りの近くのグループホームの入居者ともグランドボールや畑作業などを一緒にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生に、認知症の理解をしていただく為体験学習の受け入れをした		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価など結果報告し内容改善を話し合いサービス向上に活かしてる	毎日の業務に励むなかでの会議開催は困難を極めるが、2ヶ月に1回開催できていることがなによりと管理者は考えている。また、会議を通じて地域の皆さんと顔なじみになり、散歩などにおいて挨拶のできる関係が築けているという成果も得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の方が月一回来設し相談意見など話あっている 事業者連絡協議会への参加	3ヶ月に1回行われる地域の事業者連絡協議会で情報交換できるほか、月1回訪問くださる介護相談員からも貴重な意見をもらえ役だっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼研修で学ぶ機会があり、玄関から外に行かれるときはさりげなく声をかけたり、後ろからついていき見守りしている。家族にも身体拘束をしないケアに取り組んでいることを理解していただいている	身体拘束ゼロ宣言をしている。緊急時の際には施錠することもが、基本的には施錠はない。また、取り組まなければならない状況になった場合「緊急性、切迫性、一時性」を記載し客観性を求める書面も備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼研修で学ぶ機会があり、理解し虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には研修をしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に基づいてゆっくり説明し疑問点などあれば説明し理解納得したうえで後日契約をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者家族の意見には耳を傾けているようにしている 運営推進会議で意見要望など聞く機会にしているそれを運営に反映させている	入所間もない頃には事業所から電話を掛ける頻度を増やし、生活の様子を伝えることで安心し、かつ言ってもらえる関係をつくるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、カンファレンス等で話し合っている個別に話さく	給与明細を渡す際に、簡易な個人面談をしている。また、管理者が気づいた場合は時間をとって話を聞くようにしている。リラックスした状況で話を聞くことができる懇親会も年数回ある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の悩み、やりがい等聞き努力した成果が見られるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に研修に行けるように計画している 法人の研修には全員受ける機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会に参加している他のグループホームと交流の機会に意見交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人家族の見学の受け入れをし中の様子を見ていただいたり本人の不安、求めていることを、聴くようにつとめている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族ともよく話し合いお互いに情報交換し理解し合えるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の様子を聞かせて頂き必要とされる支援をしていきたい		
18		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活態度を見て参考にさせていただいたり、昔の事や料理など教えて頂いたりしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況を話したり、以前のことを聞いたりと、一緒に本人を支援できるように協力しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と馴染みの場所に出かけたり、電話で話したりすることを支援しています	日々の会話の中で会いたい人や場所について出れば職員が付き添い出掛けている。また、意向や要望がでてくるよう話を聞く機会をつくるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に話しかけたり話の輪に入っていたり、一緒にいろいろして頂きながら関わりができるように努めています		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々会いに行った方もいました			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人から希望を聞いたり、日常の態度を参考に職員間で話し合い検討しています	積極的に希望を伝えてくださる利用者が多く助かっている。また、言えていないと思われる場合はこちらから問いかけをしたり、様子を観察し、確認をこまめにとるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にいろいろ聞き把握に努めています			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル、食事水分の摂取、排泄、睡眠などチェック表に記入して把握に努めています			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意思を尊重し、職員の意見も取り入れ、本人のやりたいこと・好きなことを取り入れ、より良く暮らせるよう介護計画を作成しています	包括的支援プログラムチェックをベースに、本人に直に確認がとれるケースは本人からの聞きとりから始めている。モニタリングは担当制で1ヶ月に1回行い、カンファレンスは全員で取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別チェック表などに記入しています 気づいたことはカンファレンスを行い見直しに活かしています			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の入院している病院へのお見舞いなど、希望があれば要望に応じ対応しています 他の施設にいる友人の面会に付き添うこともあります			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や踊り、ピアノ演奏のボランティアの訪問、市の移動図書館の利用、神社の祭りに参加しています			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度はかかりつけ医へ受診したり、往診を受けたりしています 受診が必要な時は家族と協力して適切な医療を受けています	定期では往診が常に1回、受診が月1回ある。医療記録は「医療看護相談記録」に記載し、情報を共有することで有事に備えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談し、助言を受け健康管理を行っています かかりつけ医の看護師の支援も受けています			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が時々お見舞いに行き、その際病状などの情報収集をし、退院に向けた支援をしています			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と医師と相談し、チームでできるだけ支援し、それ以上支援不可能な時は、再度家族や医師と相談し検討していくようにしている	事業所としては担当医と家族の協力が得られれば看取りに取り組む考えがあるが、多様な方法があるため、都度家族と話し合うよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを貼り職員が分かるようにしています 急変時は他のユニットの職員も協力しています			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回以上は火災・地震時の訓練を行っています 地域の方の見学もありました	夜間想定にも取り組んでいる。実際道具も使い、実践的な内容になるよう努めている。地域の皆さんにも参加してもらえるよう取り組みを始めている。	消防署の協力を得て呼吸蘇生法講習を取り入れるなどし、地域の皆さんにも参加してもらえるよう、今後の工夫に期待する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生きてきた人生や人格を認め、尊重し、その人の持っている誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めています	利用者が手伝って欲しいことでも、本人の役に立つことかを考え、時には励ましの言葉や共感の言葉を交え、手伝わぬという選択肢をもてる技能の高い職員が多い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意志を表す時は、よく聞きなるべく意向に沿うようにしています 意志をうまく伝えられない方には、表情や態度を観察し、何をしたいのかくみ取り、自己決定ができるように質問をしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先を心掛け、どのように過ごしたいかという希望に沿えるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれができるよう支援しています 衣類や化粧品など一緒に買いに行っています 希望の美容院に出かけています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に二回希望の献立を聞いて参考にしています 平日は副食のみ業者より提供、日曜日は材料が届き作る日となっています いずれも準備、片付けなど一緒にしています	年1回の嗜好調査のほか、日頃から好みや希望について確認するようにしている。また、委託業者についても折につけ再検討するようにしている。お弁当をもって近くの公園にピクニックもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副食は栄養のバランスを業者の方でとっています 食事量や水分量を確実に摂取できるように声掛けしています 個人記録に摂取量を記録しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしています 自分でできることはなるべくして頂き、できないところは介助しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入して排泄パターンの把握に努めています 日中はなるべくトイレで排泄できるよう支援しています	自立の人が多いということもあるが、職員がパターンを把握することでトイレでできる人が大半である。薬を使うケースではパターンから外れるため、さらに目配りを心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後水を飲んで頂いたり、ヨーグルトを食べて頂いたり、日常的に水分を摂取できるようにして予防に努めています又主治医と相談して下剤を処方していただいています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴があり、体調に合わせて入浴していただいています	体調により足浴や清拭に変更することもあるが、嫌がる場合も2日以上空かないよう動機づけを工夫し、清潔保持に努めている。また、利用者同士で誘いあって何名かで一緒に入ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休んで頂いたり、寝る時間も状況に合わせています 布団干しもし、気持ちよく眠れるように努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬しないためにも利用者の薬を薬管理表に記入して把握しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った役割や、花札・カルタ・折り紙など楽しみ事などして頂き、張り合いや楽しみのある生活ができるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により車で買い物、ドライブに出かけたり、散歩など支援しています	外気浴を目的とした無理のない距離での散歩を心がけている。事業所でもドライブや買い物に出掛けるが、休日に家族が外出に連れ出してくれることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、できる方には支払いをしていただいています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をかけていただいています 手紙も出しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を飾ったり、ポスターや行事の時の写真を貼ったり、季節の感じられる本を借りたりしています	利用者と職員とで協働で掃除をしているため、どの部屋も整理整頓が行き届き清潔である。室内温度をめやすに衣服の枚数を考慮したり、カーテンで採光を調節し、居心地を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でテレビを見ながら気の合った人と話したり、食堂で話をしながら好きなことをしたり、時には部屋で一人で過ごしたり、好きな場所ですごされています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物、使用していた物など居室に置き、以前と似た環境にして心地の良い空間になるよう配慮しています	エアコン、ベッド、洗面所、クローゼットが備え付けられており、そのほかのものは好みに応じて自由に持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事や分かる事はなるべく自分でして頂き、わからないことは職員が声掛けし一緒にすることや行動することで、混乱や失敗を防げるように支援しています		